



2008年3月期中間決算報告



株式会社クレオ
2007年10月30日

2008年3月期 中間決算ハイライト

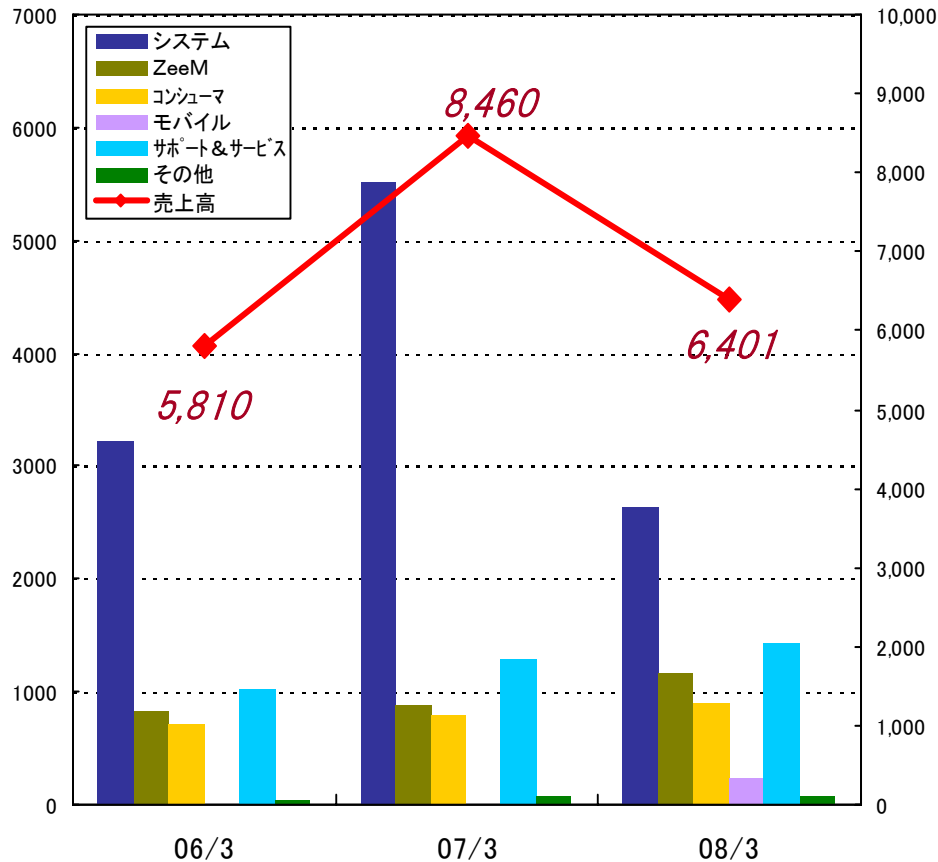
- 2008年3月期中間の売上高は6,401百万円（前期比24.3%減）、営業利益は101百万円（前期は営業損失145百万円）、経常利益は101百万円（前期は経常損失186百万円）、中間純利益は22百万円（前期は中間純損失244百万円）となった。
- システム開発事業は、中央システムの売却による連結除外と当第1四半期に発生した不採算プロジェクトの影響により、売上高2,628百万円（前期比52.3%減）、営業利益390百万円（前期比16.7%減）となった。
- ZeeM事業は、ライセンス販売の増加と品質安定化により品質管理コストが減少したため、売上高は1,160百万円（前期比32.6%増）、営業損失は84百万円（前期は営業損失408百万円）となった。
- コンシューマ事業は、筆まめおよび周辺製品の好調な出荷により、売上高は893百万円（前期比12.6%増）、営業利益は206百万円（前期比5.5%増）となった。
- モバイル事業は、売上高は229百万円、営業損失は38百万円となった。
- サポート&サービス事業は、既存顧客からの受注増加と、ヤフー向け運用業務の拡大により、売上高は1,426百万円（前期比11.4%増）、営業利益は119百万円（前期比47.3%増）となった。
- その他事業は、概ね予定通り業績が推移し、売上高は63百万円、営業損失は18百万円となった。

※当会計年度よりセグメント変更を行っているため前年同期実績を変更後のセグメントに組替えております。（その他事業におきましては、前年同期は当該事業がございません。）

2008年3月期 中間決算の概要(売上)

(百万円)

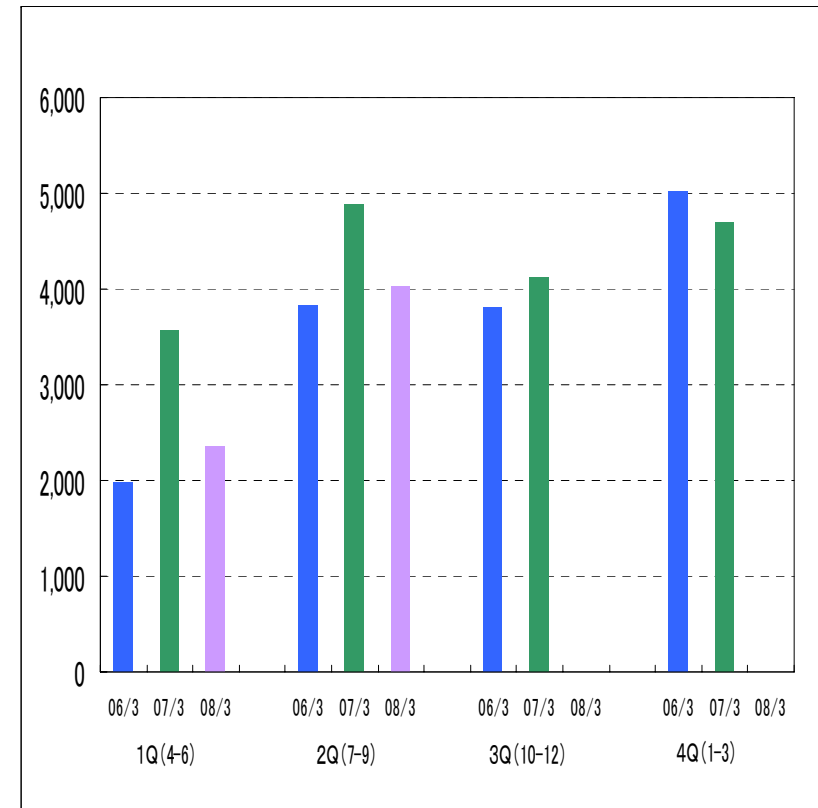
売上高:セグメント別



■システム開発事業は、中央システム売却により前期より減少

■ZeeM事業はライセンスの販売が増加(9月/月販1億円達成)

売上高:四半期推移



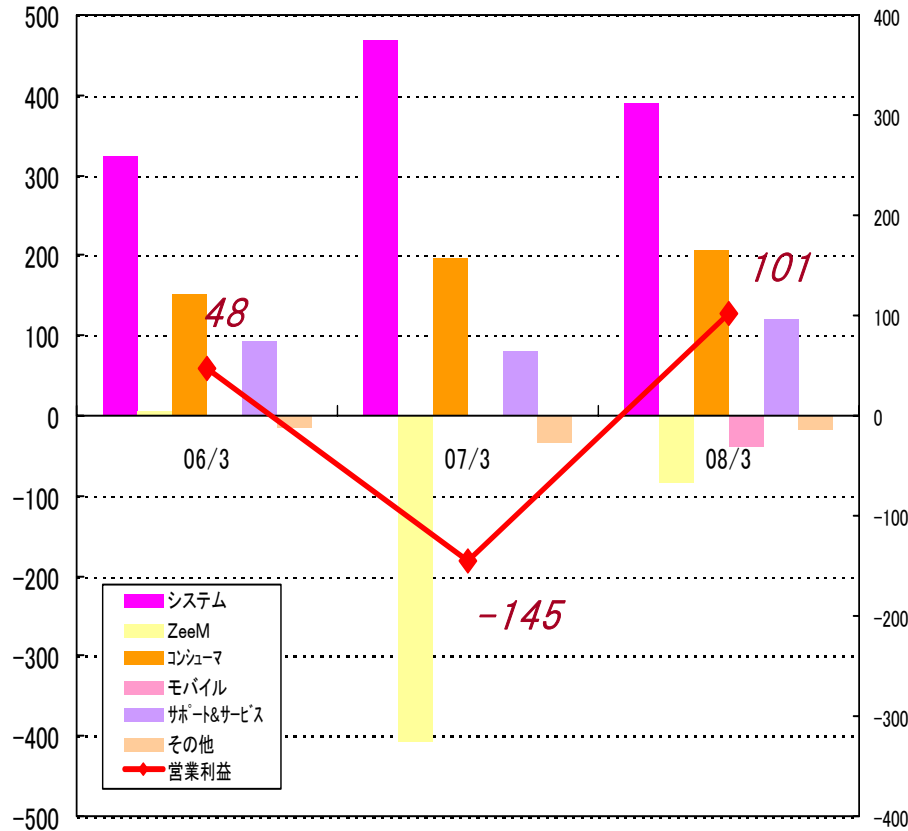
	1Q	2Q	3Q	4Q
06/3	1,969	3,841	3,811	5,020
07/3	3,573	4,887	4,123	4,695
08/3	2,368	4,033		

2008年3月期 中間決算の概要(営業利益)



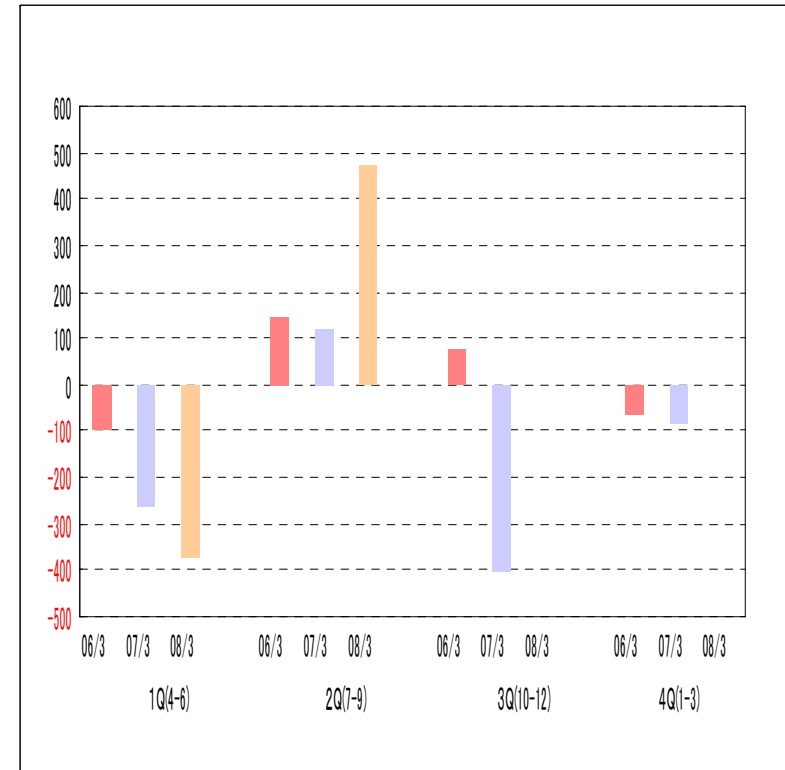
(百万円)

営業利益:セグメント別



- システム開発事業は、中央システム売却により前期より減少
- ZeeM事業はライセンス売上の増加、品質安定化による品質管理コストの減少、マスター償却費の減少により利益が大幅に改善

営業利益:四半期推移



	1Q	2Q	3Q	4Q
06/3	-98	146	75	-64
07/3	-265	120	-406	-87
08/3	-371	472		

2008年3月期中間 損益計算書の概要

〔百万円未満は切り捨て〕

主な科目	2007/9末		2006/9末
	金額	前期末増減	金額
売上高	6,401	△2,059	8,460
営業費用	6,300	△2,305	8,605
営業利益 (△は営業損失)	101	247	△145
営業外損益	0	41	△41
経常利益 (△は経常損失)	101	288	△186
特別利益	-	△35	35
特別損失	23	△5	29
税引前当期純利益 (△は税引前当期純損失)	78	258	△180
法人税等	67	△3	70
法人税等調整額	△6	17	△23
少数株主利益 (控除)	△5	△22	17
当期純利益 (△は当期純損失)	22	266	△244

増減ポイント

- ・売上高および営業損益については決算ハイライトの通り
- ・営業外損益：前期は持分法による投資損失の計上(サイオ、ネットジーン)
- ・特別利益：前期は固定資産売却益による計上
- ・特別損失：投資有価証券評価損、貸倒引当金繰入額等の計上

2008年3月期中間 貸借対照表の概要①

[百万円未満は切り捨て]

主な科目	2007/9末			2007/3末	
	金額	構成比	前期末増減	金額	構成比
資産合計	8,128	100.0%	△443	8,571	100.0%
流動資産	5,860	72.1%	△491	6,351	74.1%
現金・預金	2,101		357	1,744	
受取手形及び売掛金	3,159		439	2,720	
棚卸資産	346		△36	382	
繰延税金資産	69		5	64	
その他	183		△1,258	1,441	
固定資産	2,268	27.9%	49	2,219	25.9%
有形固定資産	243		35	208	
無形固定資産	1,151		△3	1,154	
ソフトウェア	751		28	723	
のれん代	382		△31	413	
その他	16		0	16	
投資等	873		17	856	

増減ポイント

流動資産

・現金・預金:

中央システム売却代金の入金
(1,250百万円)があるものの、
ソフトウェア投資、借入及び社債の
返済により357百万円の増加

・売掛金:

筆まめの出荷にともなう増加
(9月集中期)

・その他:

中央システム売却による未収入金
の減少

2008年3月期中間 貸借対照表の概要②

〔百万円未満は切り捨て〕

主な科目	2007/9末			2007/3末	
	金額	構成比	前期末増減	金額	構成比
負債合計	3,167	39.0%	△465	3,632	42.4%
流動負債	2,496	30.7%	△247	2,743	32.0%
買掛金	693		△10	703	
1年内借入金及び社債	277		△28	305	
その他	1,526		△209	1,735	
固定負債	671	8.3%	△218	889	10.4%
長期借入金及び社債	503		△191	694	
その他	168		△27	195	
純資産合計	4,960	61.0%	21	4,939	57.6%
資本金	3,149		0	3,149	
資本剰余金	3,759		△2	3,761	
利益剰余金	△1,878		22	△1,900	
自己株式	△131		7	△138	
株式等評価差額金	6		0	6	
少数株主持分	55	0.7%	△6	61	0.7%
負債純資産合計	8,128	100%	△443	8,571	100%

増減ポイント

負債

・流動負債:

1年内返済長期借入金の定時
返済による減少

その他の主な増減は、未払消費
税等の支払による減少

・固定負債:

長期借入金の定時返済及び社債
の定時償還による減少

その他の主な増減は、未払役員
退職慰労金の支払いによる減少

2008年3月期中間 キャッシュフロー計算書の概要

〔百万円未満は切り捨て〕

区 分	2007/9末	2006/9末
営業活動CF	△211	18
税金等調整前当期純利益	78	△180
減価償却費	303	405
売上債権の増減額（増加：△）	△436	△100
たな卸資産の増減額（減少：△）	36	133
仕入債務の増減額（減少：△）	△9	△133
その他	△183	△107
投資活動CF	680	△304
無形固定資産の取得	△312	△297
子会社株式の売却による収入	1,207	-
その他	△215	△7
財務活動CF	△220	△89
長期借入金の返済による支出	△143	-
社債の償還による支出	△75	△75
現金及び現金同等物の期末残高	1,994	1,745

増減ポイント

営業活動キャッシュフロー

- ・減価償却費：
マスター償却費の減少
- ・売上債権の増減額：
ZeeMの売上増加にともなう
売掛債権の増加

投資活動キャッシュフロー

- ・子会社株式の売却による収入：
中央システム株式売却による
収入(4月入金)

2008年3月期の業績予想

(百万円)

	前期/ 中間	当期/ 中間	前期/第3Q	当期/ 第3Q予想	前期/通期	当期/ 通期予想
売上	8,460	6,401	12,583	9,300	17,278	14,000
営業利益	△145	101	△551	△80	△638	410
経常利益	△186	101	△619	△90	△691	400
当期純利益	△244	22	△715	△160	△963	250

■第3四半期の見通し

- ・ 期末月への売上偏重傾向が強く、システム開発は弱含み。また、経費等を保守的に計上。
- ・ 前期はZeeMマスター資産の前倒し償却を実施。ZeeMは大幅改善。

■通期見通し

- ・ 中央システムの売却により売上は大幅に減少するが、ZeeM事業の改善により利益回復。

自己株式の取得について

➤ 自己株式取得の理由

資本効率の向上と経営環境の変化に対応した
機動的な資本政策遂行のため

➤ 取得株式総数

384,000株(上限とする)

➤ 株式取得価額の総額

1億円(上限とする)

➤ 自己株式取得日程


平成19年11月1日～平成20年1月31日

➤ 発行済株式総数

9,497,319株

自己株式総数	取得後の自己株式総数
278,374	662,374(上限)





平成 19 年 10 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社 クレオ
 代表者名 代表取締役社長 土屋 淳一
 (JASDAQ・コード9698)
 問合せ先 執行役員管理本部長 石塚 敏明
 TEL03-3445-3500

自己株式の取得に関するお知らせ
 (会社法第165条第2項の規定に基づく定款の定めに基づく自己株式の取得)

当社は、平成19年10月26日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により
 読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしまし
 たので、お知らせいたします。

記

1. 自己株式の取得を行う理由
資本効率の向上と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策遂行のため。
2. 取得の内容

(1) 取得する株式の種類	当社普通株式
(2) 取得する株式の総数	384,000株(上限とする) (発行済株式総数に占める割合4.0%)
(3) 株式の取得価額の総額	1億円(上限とする)
(4) 自己株式取得の日程	平成19年11月1日から平成20年1月31日

以 上

(ご参考) 平成19年10月26日時点の自己株式の保有

発行済株式総数	9,497,319株
自己株式数	278,374株

安定顧客基盤を深耕することで利益ベースを確保する

ZeeMをてこに顧客ベースと製品売上を拡大していく

獲得した顧客ベースに対して、付加価値の高い製品やサービス、コンサルティングを投入し、顧客あたりの売上高を上げていく

生涯顧客となりうる安定顧客基盤を増やしていく

システム開発事業 ポイント



ヤフー向け、富士通系の特定分野向け受注は深耕する

当社スキル・ノウハウが活かせる新規チャネルの開拓による顧客ベースの拡大

受注管理の徹底。より現場に根ざしたPMO活動の実践

※用語解説

PMO (Project Management Office) : 現場のプロジェクトマネジメント状況をチェックする組織。



**積極的なプロモーション活動と営業力強化による、
さらなる新規顧客獲得と売上拡大
(全社の営業チームをZeeMへ集約)**

**製品ラインナップや周辺ソリューションメニューの拡充による、
リピートオーダーの拡大**

品質管理の徹底、開発投資のコスト管理徹底

コンシューマ事業 ポイント



筆まめのNo.1キープ。前年以上の店頭シェア獲得

筆まめ以外のパッケージ商材の拡大



筆まめオンラインサービスの本格的な立ち上げによる、新規ビジネスモデルの確立

モバイル・ビジネス ポイント

Web & モバイルの総合サービスの提供を図る

SEO・SEM等マーケティングやコンサルティングを含めた
高付加価値のサービス展開する

※用語解説

SEO(Search Engine Optimization) : 検索エンジン最適化

SEM(Search Engine Marketing) : 検索エンジン マーケティング

クレオの既存事業と連携を図り、シナジー効果を生み出す



新規顧客の開拓を図る

ヤフー向け運用管理サービスの拡充を図る

テレマーケティングなど、事業領域の拡充を図る

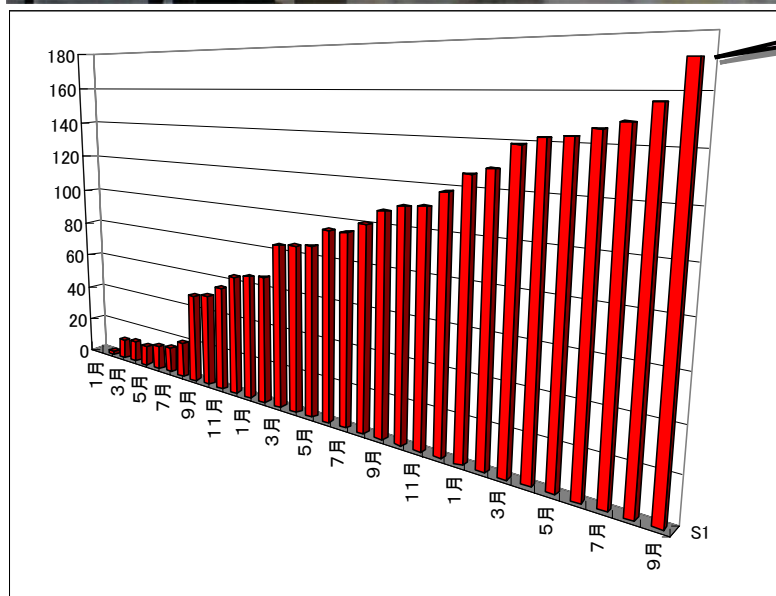
トピックス



JR新橋駅前ビジョン放映

- ・筆まめ(12月上旬～下旬)
- ・ZeeM(来年1月～7月)

累計170社突破！



ZeeM 9月期 月販1億円突破！
導入企業も累計170社を突破

当期重点ポイント

- (1) システム開発事業の利益伸長
- (2) ZeeMの黒字化と自主ビジネスの統一ブランド化
- (3) コンシューマビジネスの製品多様化とネットサービスの確立
- (4) スtockビジネス化・ソフトのサービス化（共通課題）
- (5) グループ再編、アライアンス加速
（ネットジーン合併など）

収益力を改善し、利益目標達成。赤字からの脱却

ご清聴ありがとうございました



本資料に関するお問い合わせは下記までお願い申し上げます。

株式会社クレオ

社長室 広報・IRグループ: 西山 綾子

〒108-0074

東京都港区高輪3-19-22

電話: 03-3445-3539

E-mail: ir@creo.co.jp

本資料に記載される見通し、今後の予測、戦略などに関する情報は、本資料作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲でなした判断に基づくものです。しかしながら、現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であっても、本資料を無断で複写・複製、または転送などを行わないようお願いいたします。